

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多賀城市児童発達支援センター太陽の家		
○保護者評価実施期間	令和8年12月3日		～ 令和8年12月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	令和8年11月14日		～ 令和8年11月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 12名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月23日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	週5日利用することが可能。また、他施設との併行利用が必要な児童に対し、少人数のクラス配置の中で児童に合わせた対応を行っている。	視覚支援をうまく活用しながら、自分で取り組める機会を作れるよう進めている。少人数の中で一人ひとりに、必要な支援ができるよう活動内容を検討し取り入れている。また、継続して通う事により、学びをより積み重ねることができる体制に加え、併行利用の児童についても本人の状況に合わせてながら柔軟に対応できる体制を整えている。	全体の流れを保ちつつ、より多くの活動を提供し、様々な体験を経験することで、児童が充実した時間を過ごせるようにしていく。
2	保護者の皆様に来所してもらい機会を多く取り入れ、連携が取れる機会を作っている。	面談、参観、療育への参加など、保護者のご協力をいただきながら、ご家族との連携を大切に、児童の様子を共有する機会を得るようにしている。	保護者の皆様が来所の際にはいつでも児童の様子を見学できることをさらに周知し、センターでの取り組みの理解、共有に繋げていく。
3	専門職(心理士、言語聴覚士、作業療法士)を配置し専門的な支援を行っている。	専門的なアドバイスのもと、活動内容を検討し、対応方法等についても一緒に考える時間を作っている。また、検査や面談等を通して専門的な立場から保護者へのアドバイスも行っている。	クラス支援等での専門職職員からのアドバイスを担任が共有し支援に活かしていく。さらには保護者とも共有しながらご家庭での関わりにもつなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流の機会が少ない。	同年代のこどもとのかかわりを通して、地域における仲間づくりを考えていけると良いが、センター内での関りは限られたものになる。	現在行っている交流保育の機会を活かし、年長児のみならず、他学年も交流できる機会となるよう検討していく。また、就学を見据えての学校訪問の機会等も活用し、同年代との関りを持てるようにしていく。
2			
3			